

# 第 144 回 中小企業景況調査報告書(概要版)

平成 27 年 4 月～6 月実施

平成 27 年 7 月～9 月予測

福岡県商工会連合会





















この調査は、中小企業の景気動向について、その実態と要因を四半期ごとに分析し、業種間の比較によって差異分析を行い、その分析結果に基づき、今後の経営活動の健全な発展を図るために業種別の景況情報を提供する。

1. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接聞き取り調査
2. 調査時点 平成 27 年 6 月 1 日 (日)
3. 調査対象時期 平成 27 年 4 月～6 月
4. 調査対象企業 久山町・筑紫野市・宗像市・大刀洗町・八女市・柳川市・遠賀町・築上町・飯塚市・添田町の 149 企業
5. 回答企業 149 企業 (有効回答率 99.3%)






製造業		建設業		小売業		サービス業	
企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比
28	18.8%	22	14.8%	43	28.9%	56	37.5%

## ☑ 県下産業全体 (業況・売上額 D.I)

➔ **まだまだ厳しい状況であるが、製造業を除き全体的に回復の兆しも見える福岡県の中小企業景況**

期間	製造業		建設業		小売業		サービス業	
平成 26 年 4 月～6 月		△13.3		△15.0		△35.0		△23.8
平成 26 年 7 月～9 月		△36.7		△20.0		△36.7		△17.0
平成 26 年 10 月～12 月		△3.3		△35.0		△58.5		△28.7
平成 27 年 1 月～3 月		△16.7		△30.0		△53.6		△15.5
平成 27 年 4 月～6 月		△21.4		△23.9		△16.6		△16.9

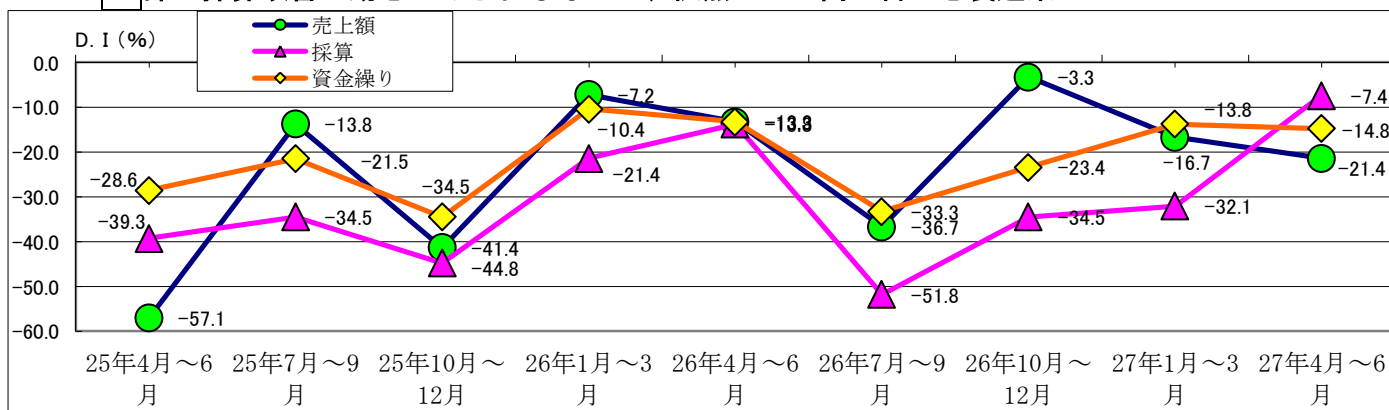
< 天気図の見方 >

D. I 値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～△10	△10.1～△30	△30.1～△100
表示	 <b>【快晴】</b> +30.1 以上	 <b>【晴れ】</b> +10.1 ～30.0	 <b>【薄曇り】</b> △10.0 ～10.0	 <b>【曇り】</b> △30.0 ～△10.0	 <b>【雨】</b> △30.1 ～△100

県下産業全体の売上額 D. I 値を前回調査時 (平成 27 年 1 月～3 月) と比較すると 9.4 ポイント改善している。前回調査時からの改善の要因は、採算は 7.3 ポイントの改善、資金繰りは 5.4 ポイントの改善となっており、全ての D. I 値で改善となっている。概ね、消費税増税前の水準あたりまで改善してきている。

## ☑ 製造業 (有効回答数 28 企業)

➡ 一部に採算改善の動きがみられるものの、依然コスト高に苦しむ製造業



### <調査企業が感じている景気判断コメント>

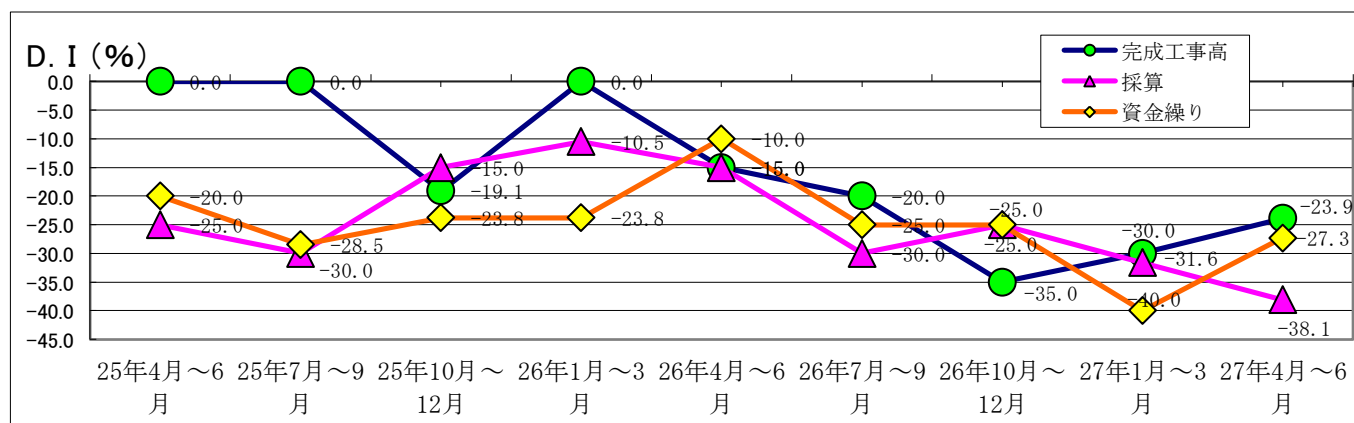
- ・資金繰りが原材料高騰のため悪化してきている。(印刷関連製造業)
- ・競争も増えてきているので、営業に力を入れ、よりよい提案を出し受注減を止めなければいけない。(工具製造業)
- ・輸入原料が多い中、原材料高騰に売価が追いつかず、円安は本当に厳しい。努力していくしかない。(食料品製造業)
- ・昨年の消費増税の影響で厳しかったため、今年の業況は明らかに好転している。(特殊製品製造業)

### <経営上の問題点>

前期			今期		
第1位	生産設備の不足・老朽化	25.0%	第1位	原材料価格の上昇	25.0% (+7.1)
第2位	原材料価格の上昇	17.9%	第2位	需要の停滞	21.4% (+7.1)
第3位	需要の停滞	14.3%	第3位	製品ニーズの変化	14.3% (+7.2)

## ☑ 建設業 (有効回答数 22 企業)

➡ 受注量が減少する中、価格競争や材料高騰の影響に直面する建設業



### <調査企業が感じている景気判断コメント>

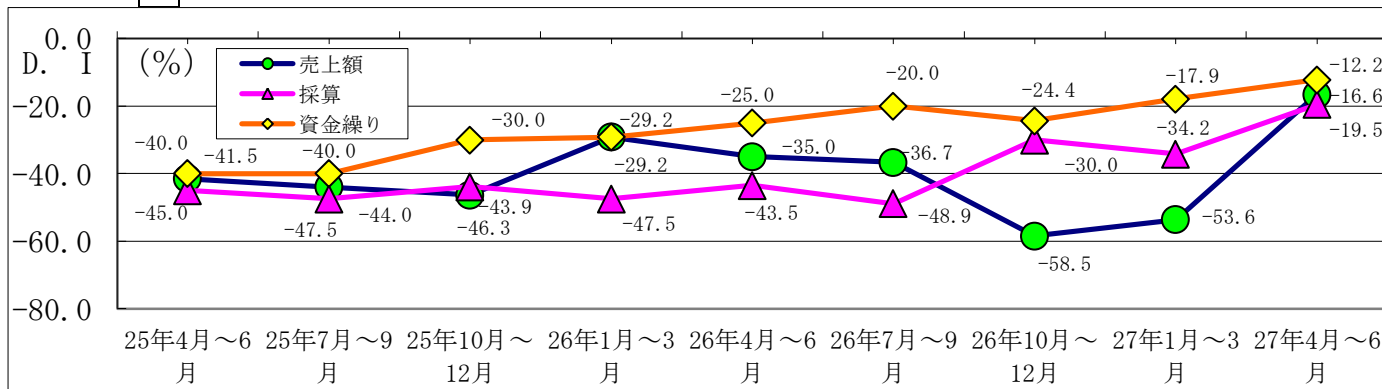
- ・昨年に引き続き、請負工事が停滞・減少しており、非常に厳しい業況である。(建築工事業)
- ・景気改善の思惑感はいまだ感じられない。今後の消費税 10% 値上げも景気先行きの不安の材料です。(造園工事業)
- ・受注量が全体的に減少しているため、受注金額が安く、競争が激化している。(土木工事業)

### <経営上の問題点>

前期			今期		
第1位	材料価格の上昇	22.2%	第1位	民間需要の停滞	22.2% (+16.6)
第2位	従業員の確保難	16.7%	第2位	材料価格の上昇	16.7% (-5.5)
第3位	請負単価の低下、上昇難	16.7%	第3位	請負単価の低下、上昇難	16.7% ( - )

## ☑ 小売業 (有効回答数 43 企業)

➔ **依然厳しさが続くものの、わずかに上向きの兆しも見られる小売業。**



### <調査企業が感じている景気判断コメント>

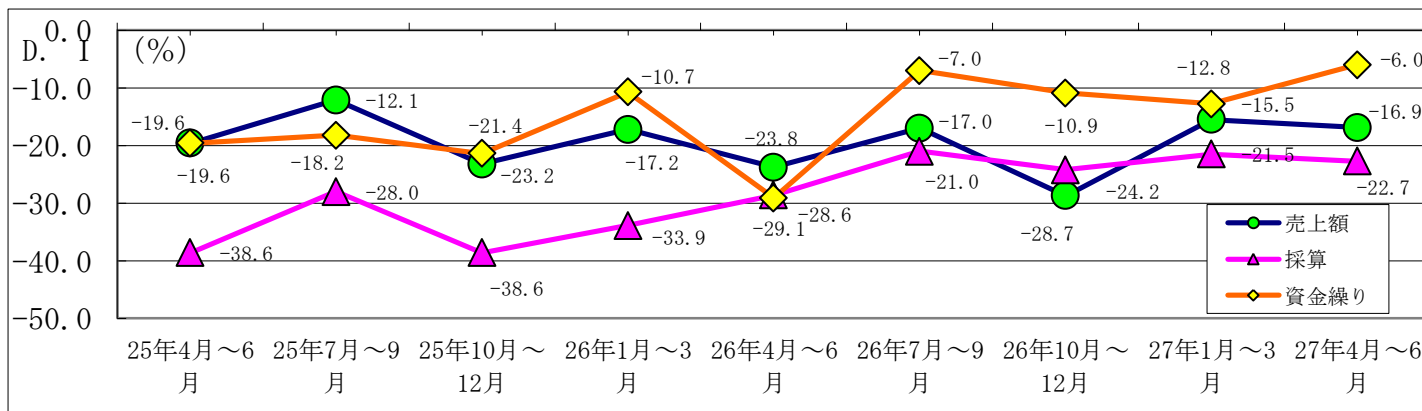
- ・価値ある商品であれば多少高くても購入されるようになった。今後にも期待している。(各種商品小売業)
- ・消費者ニーズの変化に対応した商品、販売方法などしっかり対応し努力したいと考えている。(食料品小売業)
- ・少し上向きである。ポイント事業をはじめ、宣伝効果が出てきている。(眼鏡小売業)
- ・ここ 20～30 年位頼ってきた高齢者の女性が毎年数%減り、又後継者を作れず、今に影響している。(衣服等小売業)

### <経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	大型店・中型店進出による競争の激化 25.0%	第1位	大型店・中型店進出による競争の激化 21.1% (-3.9)
第2位	購買力の他地域への流出 16.7%	第2位	購買力の他地域への流出 21.1% (+4.4)
第3位	消費者ニーズの変化 13.9%	第3位	消費者ニーズの変化 18.4% (-4.5)

## ☑ サービス業 (有効回答数 56 企業)

➔ **顧客ニーズの変化・技術の向上など適応力が問われるサービス業**



### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・写真プリントをしない人間が多くなり、プリントショップの存在価値が減少していると感じる。(写真印刷業)
- ・自動車の製造技術が向上したため故障が少なくなり、修理作業が減少している。(自動車整備業)
- ・地域の高齢化による客数減少があり売上が減少している。また、仕入価格の上昇を価格へ転嫁できない。(飲食業)
- ・利用料金の値上げが困難にも関わらず、材料費・水道光熱費等の値上げ、人件費の上昇が採算を悪化させている。また、人手が足りない時と余る時のバランスが難しい。(美容業)

### <経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	利用者ニーズの変化 25.5%	第1位	需要の停滞 18.0% (+4.3)
第2位	需要の停滞 13.7%	第2位	利用者ニーズの変化 16.0% (-9.5)
第3位	従業員の確保難 11.8%	第3位	従業員の確保難 14.0% (+2.2)